

## 令和2年度 射水市自殺対策推進協議会会議録

日時: 令和2年11月12日(木)午後3時～4時

場所: 救急薬品市民交流プラザ 3階 1A・1B会議室

出席者: 16名

### 1 議題及び会議の結果

#### (1) 射水市の自殺の現状と課題について

自殺者数・自殺死亡率の年次推移(市、県、国)、射水市の自殺の現状(性別、年代別、職業の有無、同居人の有無等)、重点課題等について報告した。

#### (2) 射水市いのち支える自殺対策推進計画の進捗状況について

基本・重点施策の評価指標について、現状値(令和元年度実績)、取組みの進捗状況を報告した。受け手・支え手支援ガイド(案)作成の目的や掲載内容について説明した。

#### (3) コロナ禍における自殺対策に関する取組みについて

広報、ケーブルテレビ、ホームページ、職員向け掲示板等による普及啓発、ハイリスク支援としてリーフレットの配布等、取組みの実施状況について報告した。

### 2 報告事項、協議事項及び会議資料

#### 【審議事項】

- |                                |             |
|--------------------------------|-------------|
| (1) 射水市の自殺の現状と課題について           | (資料1)       |
| (2) 射水市いのち支える自殺対策推進計画の進捗状況について | (資料2、3)(別添) |
| (3) コロナ禍における自殺対策に関する取組みについて    | (資料4)       |

#### 【資料】

- 資料 1 射水市の自殺の現状と課題
- 資料 2 射水市いのち支える自殺対策推進計画の進捗状況(評価指標)
- 資料 3 射水市いのち支える自殺対策推進計画の進捗状況(基本施策・重点施策)
- 資料 4 コロナ禍における自殺対策に関する取組み
- 別 添 受け手・支え手支援ガイド(案)
- 参考資料 1 射水市自殺対策推進協議会委員名簿
- 参考資料 2 射水市自殺対策推進協議会設置要綱

### 3 会議内容

#### (1) 開会

- ・配布資料の確認等

#### (2) 会議成立報告

- ・委員18名中16名の出席があり、本会議が成立している事を報告

(3) 会長あいさつ

(4) 審議事項

- ・事務局より資料説明
- ・質疑応答

質疑応答

【会長】

事務局からの説明について、委員のご意見やご質問を伺いたい。

【委員】

資料の中で20歳未満の自殺者が多いのはなぜか。また、富山新聞の記事では未成年者の自殺の最多の動機が「学校」であった。少子高齢化で若手の命をなくしていくことは深刻な課題ととらえる必要がある。事務局の考えを聞きたい。

【事務局】

20歳前の自殺者はこの1年で増えていることが分かる。人数が少ない(5件以下)場合、動向が入ってこない為分析はできていない。女性の自殺が増えている中で、若いひとり親年代の自殺も増えているが、若い俳優の自殺により女子高校生の自殺も増加しているとの分析結果も出ている。

市としては、相談窓口用の「受け手・支え手支援ガイド」を作成し、それぞれの相談機関がつながりつつ、支援をしていきたい。現状では中高生・大学生の対応は保健センターだけでは対応しきれないような状況である。

【委員】

保健センターは、児童期・学童期において対処できるが、大学生においては対処が難しい。啓発普及の講演会については、参加者は高齢者が多い。今回話題になっている若い人達が集い・勉強する会が少ないのではないか。Weekdayの開催ではなく、他の手段を使って講義・勉強できる機会を作ることが若者の自殺を防止するきっかけになってくるのではないか。

【事務局】

若い方々の自殺原因は、政府の白書の中で学校の問題が3割、その他健康問題、家庭問題であった。教育機関と連携をしたうえで、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーも含めた対応など協議していかなければならない状況にあると考えている。

【会長】

全国学校保健会の大会の発表に、学級崩壊が起こったクラスの子供たちに「希死念慮」と「自己肯定感」に関するアンケートをとった結果について発表が予定されている。アンケート結果によると、学級崩壊が起こっている時にクラスの30%の子供たちが「希死念慮」を持っており、「自己肯定感」

を持っている子供は学級崩壊を起こしているメインの2人であった。声を上げない人が苦しんでいて、弱くなっている子供が「死にたい」という気持ちを持ちながら大人になっていくことは怖いことである。全国学校保健会では、希死念慮・弱い心・心が病んでいる子供達のフォローに目を向けるような流れになってきている。

#### 【委員】

コロナが発生して大学は、授業はすべてオンラインになった。県外出身の学生は実家にも帰れず、アパートに居なくてはならない事が続いた。大学では「学生の心のケア・健康管理」のために、教員が12人～13人の学生にメールでのやり取りをしていた。その時に、「希死念慮」まではいかないが、毎日誰にも会わない・誰ともしゃべらない・人と会わないことで頭がおかしくなる、という学生も多くいた。そのことから、大学では感染対策を行ったうえで、早期に対面授業に切り替わり、後期からは研究室も再開となった。

資料3の高齢者の項目に「社会参加の推進と孤立化・孤独化の防止」があるが、コロナ禍で大学生もこれに匹敵すると思っている。若い年代にも「孤立・孤独化」は問題であると思う。現在学生は対面授業であるため学校に来ており、少し元気になったようだ。

市として大学とも連携することも大事かもしれないが、若い人たちが集まり・話し合えるようなイベントがあればいいのかという印象がある。

#### 【委員】

引きこもりやうつ状態に陥った人達に「希死念慮」があることは学校でも言われていることである。その方たちへのメッセージも確認しておく必要があるのではないかと。メールやパソコンなどいろいろなツールを使ってメッセージを送ることも大事かなと思った。

#### 【委員】

「希死念慮」については、外来受診者はほぼ100%持っている。声を上げられないままで「希死念慮」がある方をどうするかという問題になかなか結論が出ない。「自分がなんとなく阻害されると感じる」「人と数日話をしない」「自分は必要なのだろうか」などの気持ちが「希死念慮」につながる人が多く、簡単に持つことができる。しかし、「希死念慮」が自殺につながるわけではなく、ちょっとしたきっかけやアクシデントが加わり発作的に「自殺」をしてしまう傾向がある。「自殺」行動の過程を周囲は理解し「希死念慮」が改善されるような居場所を作り、声を聞いてあげる場所を提供することが必要だ。

今後は、学生や若い方に知識をどう伝えていくかが必要である。知識の普及のためにはゲートキーパーの講演会などはSNSやネットを使い、休みや夜間でも聞けるような方法も考えている。知識の普及が自殺予防として重要である。

#### 【会長】

全国で1年間、自殺でなくなっている人が2万人いる。ピラミッド型の頂点が自殺(2万人)であり、

苦しんで「生きていくことが難しい」「生きていくことが困難だ」と思っている人がどれくらいいるのか、その人たちがふとしたきっかけで命を絶ってしまうということである。

今後も、射水市として、ゲートキーパーの人数を増やすことや、様々な施策を協議会で検討し協力して自殺対策を行っていききたい。

(5)閉会